

## 三河のつばやき

亀田総合病院内もようやく、地域連携の窓口を作ることができました。皆様の声をやっとなりにできたことに少し安堵しております。加えて紹介受診や紹介受診の上入院になった場合に、取り急ぎ患者様が受診したこと、入院したことをお伝えするシステムを構築しました。今後も引き続き皆様に使いやすい病院、地域に根ざした病院を目指してがんばっていきます。これから冬になりまたベッドが厳しくなり皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、是非お支え頂けますようお願い申し上げます。



がん地域連携室 室長  
三河 貴裕

## 「トルソー症候群」と地域医療

神経内科 部長 福武 敏夫

最近、脳卒中学の領域でトルソー (Trousseau) 症候群という言葉をよく聞くようになった。「悪性腫瘍により凝固亢進状態を生じ、脳の動静脈血栓症を併発して、様々な神経症状を呈する病態」を指すようだが、果たしてそれでよいのか？ Armand Trousseauは19世紀のフランスの内科医である。辞典によると、気管切開を導入した医師として知られ、内科学や治療学の教科書も著した。後にホジキン病として知られる病態やヘモクロマトシスも記述し、亡くなる直前に、内臓ガンに伴って静脈血栓症が生じることを報告した。これから判断すると、現代の定義は拡大解釈に過ぎると思われる。悪性腫瘍に伴う中枢神経系合併症の第一は脳転移であるが、ある報告によれば14.6%に脳血管障害が認められ、その1/4は症候性脳梗塞であったという。その原因はDICや非細菌性血栓性心内膜炎による心原性脳塞栓、細菌性塞栓、静脈・静脈洞血栓症、血管炎など多岐に亘る。Trousseauは優れた臨床医であったと思われるが、その原因の一部を記述したに過ぎない。

ともあれ、腫瘍患者の診療に当たる医療者は傍腫瘍性脳梗塞の存在を念頭に置くべきであり、特に医師は患者の(中枢)神経症状が軽微であってもDダイマーなどの凝血学的検査やMRI拡散強調画像を行う必要があると思われる。

ところで、神経内科では以上の悪性腫瘍 脳梗塞とは逆に、脳梗塞患者のフォロー中に貧血などを契機に悪性腫瘍を発見することがある。このいずれもの病態とも複数の専門科に関連し、患者の「ヘルスマネジメント」の困難さを示しているが、地域連携、特に開業医の役割の一つがここにあるのではないかと考える。

平成23年10月3日より

**地域医療支援部 地域医療連携室**にて

紹介外来予約ご相談・入転院のご相談

当院主治医への問合せを等承ります

受診・検査等が早めに必要な場合 / 転入・入院が必要な場合  
当院主治医へのお問合せ / その他、地域連携に関すること

受付時間帯

9:00 ~ 16:00

(日・祭日除く)

TEL: 04 - 7099 - 1261

FAX: 04 - 7099 - 1121

\*入転院に関するご相談は医療機関担当者さまよりお願いいたします  
\*転院の際は「診療情報提供書」「ADL票」をご用意いただきます

緊急時

24時間体制

TEL: 04-7092-2211(代)

【救命救急センター】

医療機関担当者様よりご連絡下さい

受診・検査まで余裕がある場合

8:00 ~ 17:00(日・祭日除く)

TEL: 04-7099-1111

【予約センター】

患者さまから直接おかけいただいて  
構いません

## TOPICS

講演会のご案内

日時: 10月24日(月) 18:30 ~ 19:30

場所: 亀田総合病院 Kタワー13階 ホライゾンホール

講師: 公益法人がん研究会がん研究所

病理部 部長 石川雄一先生

演題: 肺癌の病理診断をめぐる最近のトピック

参加ご希望の方は、がん拠点病院推進センターまでご連絡下さい

## 大多喜町の“一隅を照らす”病院として



川崎病院  
大下 正晃 院長

平素より亀田総合病院を始め、勝浦・いすみ地域の各医療機関の皆様方には大変お世話になっております。

ここ川崎病院は大多喜町に百数年に渡って地域住民の皆様には医療を提供してきた歴史ある病院で、私が3代目の院長です。今までは、医療療養・介護療養の48床を有する病院でしたが、平成23年10月1日には医療療養26床、病院併設型老人保健施設22床として生まれ変わります。これからも地域のニーズに応えるべく、まさに“一隅を照らす”病院として、医療・介護・在宅・訪問看護・リハビリテーションなどさまざまな分野で医療サービスを提供していきたいと思っております。

私は徳島大学の出身で、大学入局当初は消化器外科を専攻しておりましたが、その後、小児外科そして現在では、順天堂大学の非常勤講師としてNSTディレクターを兼務しながら、この地域医療に従事しております。都会から地域まで、外科疾患から内科疾患まで、そしてゆりかご(小児医療)から墓場(老年医療)まで、いわゆる“何でも屋”“お気軽さ”、そして“若さ”を売りにしております。

我々、地域医療の最前線に従事する医師の役割は、まず患者さんの話に耳を傾け、患者さんに寄り添った医療を提供すること、そしてがんの早期発見、かつ脳・心血管イベントをいかに防ぐかに集約されていると思っております。

この地域は亀田総合病院なくては医療が成り立たない地域です。“敷居が高い”と思っていた亀田総合病院も、がん地域連携室長の三河先生がフットワーク良く活躍されていることで気軽に相談でき本当に心強く思っております。

『私が動けば患者さんもハッピーになる』のであれば努力を惜しみません。

今後ともご指導の程、よろしくお願ひいたします。

亀田総合病院がん拠点病院推進センター  
発行責任者: 亀田 信介  
編集責任者: 唐鎌 房子  
TEL: 04-7099-1230(内線7155)